

中・上級学習者を対象とした政治学語彙習得支援の実践と検証 —語彙リスト構築・ICT・生成AIの活用を通して—¹

結 城 佐 織
大 橋 真貴子

【要旨】

本稿は、政治学を学ぶ中・上級日本語学習者を対象に、専門語彙の効率的な習得を支援する教育実践を報告するものである。まず、授業内での使用頻度や学習者の理解度に基づいて専門教員が選定した専門語彙リストを構築し、他の語彙リストとの比較や形態素解析を通じて、その独自性と教育的有用性を検討した。次に、政治学の専門語彙リストを活用したExcel教材および語彙学習アプリとの連携により、自律的な語彙習得支援の実践を行った。さらに、生成AIを用いた短文生成により、語彙の文脈化学習と難易度調整の可能性を検討した。これらの取り組みは、専門日本語教育における語彙指導の新たな方策として有用であり、AIを活用した教材開発と学習の個別最適化の可能性を示唆するものである。

【キーワード】

専門語彙、専門日本語教育、自律学習支援、語彙親和性、文脈化学習

1 はじめに

近年、専門日本語教育においては、分野固有の語彙の効果的な習得をいかに支援するかが課題となっている。特に政治学のように抽象性が高く、政治的な文脈である特定の意味を持つ語彙は、従来の語彙学習法では特定の意味を推測できず、語彙の意味の推測に関して学習者に大きな負荷がかかると指摘できる。中・上級レベルの日本語学習者が、専門的な知識を母語や英語など他言語で既に有している一方、日本語における語彙の運用には困難を感じる場面も多く、専門語彙指導の工夫が求められている。

本実践では、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（以下、IUC）における政治学の授業実践をもとに、専門語彙習得支援の新たなアプローチを提案する。具体的には、授業内での使用頻度や学習者の理解度に基づき専門教員が選定した専門語彙リストの構築を出発点とし、その語彙リストを活用した教材開発、さらには生成AI（ChatGPT）を用いた語彙の文脈化学習への応用に取り組んだ。

本稿では、①政治学に関する専門語彙の選定と他リストとの比較分析、②語彙リストの教材化と語彙学習アプリとの連携、③ChatGPTによる短文生成と語彙使用分析の三点に焦点を当て、ICTを活用した語彙習得支援の教育的可能性を検討することを目的とする。こ

これらの実践を通じて、専門語彙の効果的な導入と定着を目指すとともに、語彙教育におけるAI活用の実用的可能性について考察を行う。

2 専門語彙リスト

2-1 専門語彙リストの必要性

専門語彙は日常語とは異なる特定の文脈で使用されるため、さらなる学習が必要となる。Ward, J. (1999: 321) が「Therefore for students with the limited aim of reading their engineering textbooks in English it makes sense to start them as soon as possible on material based on lists like EngList₂ 1 & 2. Much greater efficiency will be provided where purposes are specific and homogeneous.」と述べているが、本実践では日本語学習の目的がはっきりしている中・上級の日本語学習者にとっては、目的に合う語彙を早い段階で学習することは効果的であるという立場をとる。また、本稿では便宜上、専門用語と専門語彙の区別はせず、すべて専門語彙とする。

田地野ほか(2007: 124)では、「英語の読解において十分な理解のためには未知語は2%未満でなければならないとすれば、学術文献の読解には学術語彙 (EGAP語彙₃およびESAP語彙₄)の習得が不可欠となる。大学におけるEAPカリキュラムデザインの観点から考察すれば、EGAP語彙からESAP語彙への連携が重要である」としている。

文化庁(2021)₅によると、「自立した言語使用者」のB2には「自分の専門分野の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流ちょうかつ自然である」とあり、「基礎段階の言語使用者」のA2には「ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる」とある。しかしながらIUCでは、大学院生で自身の専門に関しては英語などの他言語で知識がある場合、A2に関してはあまり説明できないが、B2にある専門分野に関しては説明できるという現象もみられる。学習者にとって語彙親和性の高い専門語彙の意味が分かれば、背景知識により内容を推測できることが起こりえるのである。今後の展開として、大学院生や高度な専門知識を有する学習者に対しては、一般語彙や学術共通語彙の積み上げを前提とする従来型の学習プロセスに加え、専門語彙の習得を起点として一般語彙や学術共通語彙の理解を派生的に広げていく学習経路も、有効な補完的手法として積極的に提案し得ると考える。

2-2 IUCの政治学クラスにおけるO-listの設計

IUCの3、4学期には専門科目が設置され(参照: 秋澤2024)、政治学が開講されている。

教科書である『はじめての政治学』は、日本の政治学科の大学1年生が授業で使用するレベルのものであり、IUCの政治学では日本の政治学の基礎を学ばせる目的で使用している。中・上級日本語学習向けに、政治学担当の専門教員がIUCの学生に使用語彙のレベルまでに引き上げてほしい専門語彙や表現、理解してほしい語彙を選択し、語彙リストを作成した。この専門語彙リストは各章ごとに選択されている。(2,601語)。また、政治に関する専門語彙には「**」が、専門語彙ではないが重要な語彙や表現には「*」が、それぞれ付けられており(1,104語)、専門語彙に関して学生は覚えて積極的にアウトプットするよう求められている(参照:大橋2022)。表1は実際に学生に配布された語彙リストの一部である。

表1 IUCの政治学のための専門語彙リスト

		単語	よみかた	意味(英語)
p.18	**	政治意識	せいじ いしき	political awareness
	*	反感	はんかん	antipathy
		追隨する	ついでい する	follow (in the wake of)

**専門語彙、*重要な語彙や表現

大橋(2022: 16)を一部改訂

IUCの政治学のための専門語彙リストは学習者の認知負荷を軽減し、政治学の内容理解を促進するために「権限」「権限を与える」「権限を制限する」「権限を有する」などコロケーションを意識し、異なる語彙項目として扱われる。また、いわゆる専門語彙とされやすい名詞だけでなく、中・上級の日本語学習者に必要だと思われる動詞や形容詞も明記されているのが特徴である。本稿の分析のために、各章ごとに作成されたIUCの政治学のための専門語彙リストをまとめ、検索しやすい形式にした語彙リストをO-listと呼ぶことにする。

2-3 他の語彙リストとの比較と分析

本稿ではO-listの有用性を検証するために、一般的な専門語彙のリストとして日本語学術共通語彙リストVer. 1.01(2011)⁷、政治学の専門語彙リストとして木下(2025)、時事的な政治に関する語彙リストとしてClub Alpha(2025)を取りあげる。

松下(2011b)によると、学術共通語彙(以下、学術共通)とは学術テキストにおいて一般テキストよりも高いテキストカバー率を示す語彙であり、Wikipediaの学術的な項目のテキストでは15%以上がカバーされると推測されるものである(表2)。

表2 上級前半 レベルⅢの例

視覚	同等	数量	単一	併用
提起	総称	考案	ルネサンス	喚起
支出	害	配布	ギャップ	ファイブ

学術共通(2011)

一般的テキストでの使用率に比べて学術的なテキストでより高い使用率を占める語彙であり、分野を問わずに高い使用率となる。日本語学術共通語彙リストVer. 1.01はいわゆる特定の分野においてのみ高い使用率となる専門語彙とは異なるものであり、一般的な基本語彙と専門語彙の中間に位置する語彙とされる。大学の留学生にとっては、初級の基本的語彙に次いで重要な語彙である(松下2011c)。学術共通(2011)が政治学を専門とするIUCの学習者に対しても有用なのか、比較検討したい。

木下(2025)の語彙リストは、「政治学・行政学用語集」という題名で、授業の補助資料として用語集を作成したものである(表3)。森本(2006)ほか専門書籍である5つの参考資料が挙げられている。同じ政治学という分野における専門語彙リストとして、O-listとの一致率などを検証したい。

表3 あ行の例

	用語	意味・内容
あ 行	圧力団体	利益団体と同義であるが、政党や行政に積極的に働きかける利益団体を指す。
	アナウンスメント効果	選挙に関連する報道によって、有権者の投票行動が変わることをいう。バンドワゴン効果と判官びいき効果がある。

木下(2025)

Club Alpha(2025)の時事キーワード集は、The Japan timesが提供しているClub Alphaの記事を読む際や、今話題になっていることについて英語で話すときに知っておきたい語彙集であり、随時新しい語彙も追加されるというものである(表4)。またClub Alpha(2025)には見出しの項目の関連語彙があり(図1)、本実践の語彙リストにはこの関連語彙も含めている。政治に関する情報は常に更新されており、時事的な内容についてのO-listの有用性についても考察する。

表4 政治・選挙の例

大統領令	指揮を執る	(米) 予備選挙	更迭する
executive order	stand at the helm	primary	replace/dismiss

Club Alpha (2025)

図1 大統領令 (executive order) の関連語彙

◆関連語

- ・ legally binding : 【形】法的拘束力のある
- ・ Congress : (米) 連邦議会 (上院・下院の総称)
- ・ presidential memorandum : 大統領覚書 (複数形はmemoranda)
- ・ separation of powers : 権力 (三権) 分立
- ・ executive compensation : (企業における) 役員報酬
- ・ executive decision : 最高意思決定、大統領判断、経営判断など (文脈により異なる)

Club Alpha (2025)

大統領令という語彙の英訳はpresidential decree やpresident orderではなく、executive orderとなっている。専門語彙の複合語は一語として認識した際に意味役割が異なる例である。本実践では、専門語彙としては一語として覚えるべきであると考え。

2-4 形態素解析との対応と教育的含意

学術共通(2011)、木下(2025)、Club Alpha(2025)とO-listを比較した。表5はO-listと、学術共通(2011)、木下(2025)、Club Alpha(2025)の3つの語彙リストを比較した結果である。

表5 O-listとの一致率

	学術共通(2011)	木下(2025)	Club Alpha(2025)
語彙数	224/2139	40/424	39/259
一致率(%)	10.5	9.4	15.1

学術共通(2011)と一致した語彙のうち、O-listで専門語彙(**)、重要な語彙や表現(*)とされているのは皆無であった。なお、学術共通(2011)には「政策」「政府」はあるが「政治」という語彙がない。政治は基礎語彙として認識されているのであろう。松下(2011a)が指摘する学術語彙の抽出限界に対し、O-listは専門教員の判断による補完可能性を提示

するものだと考える。

表6はO-listと木下(2025)の共通語彙、表7はO-listとClub Alpha(2025)の共通語彙である。

表6 O-listと木下(2025)の共通語彙

事務次官(**)	利益表出機能(**)	参加民主主義(**)	国政調査権(**)
多元主義(**)	多元的民主主義(**)	多党制(**)	多数代表制(**)
委員会中心主義(**)	弾劾裁判所(**)	新自由主義(**)	権威主義(**)
権威主義体制(**)	比例代表制(**)	牛歩戦術(**)	違憲状態(**)
公聴会(*)	参加型政治文化(*)	大選挙区制(*)	小選挙区制(*)
強力効果説(*)	拘束名簿式(*)	未分化型政治文化(*)	熟議民主主義(*)
臣民型政治文化(*)	訴追委員会(*)	議院運営委員会(*)	財政民主主義(*)
限定効果説(*)	非拘束名簿式(*)	争点投票	会派
有効性	行政指導	趣旨説明	本会議中心主義
アナウンスメント効果	デュヴェルジェの法則	フレーミング効果	プライミング効果

*順不同

表7 O-listとClub Alpha(2025)の共通語彙

上院(**)	下院(**)	与党(**)	保守(**)	党員集会(**)
公務員(**)	公益(**)	共和党(**)	内閣改造(**)	参議院(**)
小選挙区(**)	憲法(**)	政治不信(**)	民主党(**)	派閥(**)
総選挙(**)	腐敗(**)	臨時国会(**)	衆議院(**)	見返り(**)
解散(**)	通常国会(**)	選挙(**)	野党(**)	妥協(*)
暴動(*)	改正(*)	職務(*)	修正	就任
比例代表	復活	反逆	画策	演説
確定	立候補	一票を投じる	議会制民主主義	—

*順不同

学術共通(2011)、木下(2025)、Club Alpha(2025)との一致率を見る限り、O-listは3つの語彙リストでの一致率が9.4%から15.1%となっている。15%以上がカバーされると高いテキストカバー率とされるならば、O-listは政治に関する語彙のカバー率として優位にあり、有用であることがわかる。また、木下(2025)、Club Alpha(2025)での共通語彙のう

ち、O-listが専門語彙として示したものの多くが複合語であることを指摘しておく。

形態素解析との比較を行うために『はじめての政治学』を日本語読解学習支援システム「リーディング チュウ太」(2021)で形態素解析をし、結果をT-listとした。表8はT-listの語彙と、学術共通(2011)、木下(2025)、Club Alpha(2025)の3つの語彙リストを比較した結果である。

表8 T-listとの一致率

	学術共通(2011)	木下(2025)	Club Alpha(2025)
語彙数	872/2139	9/424	40/259
一致率(%)	40.8	2.2	15.4

T-listと学術共通(2011)のカバー率が上がり、木下(2025)の一致語彙数が9語となっているのは、複合語処理の仕方によるものである。例えばO-listと木下(2025)では「多元的民主主義」が1語として認識されているのに対し、T-listでは「多元的」「民主」「主義」と3語となっているからである。形態素単位を形式的に複合しても、複合の意味になるとは限らない。「多元的民主主義」や「党員集会」などの専門語彙は、専門知識や背景知識のある学習者にとっては「多元的民主主義」は「multi-dominant democracy」、「党員集会」は「caucus」であると1語として認識できるほうが理解しやすく、記憶の効率性が良い。また授業では複合語の形で1語として出現するため、1語で記憶するほうが運用しやすくなるなど学習者の学習効率も上がるだろう。専門語彙において、形態素解析によって抽出された語彙リストには課題があることを示唆している。

松下(2011c)は学術共通(2011)について、短単位の語より頻度の高いものも多いはずであるが複合辞・複合語・連語などは抽出できていないこと、コーパスは多義表現に弱く学術的な語が日常語の比喻表現などと同形の場合、抽出できていない可能性があることの二点を指摘している。この二点においてO-listは優れていると考えられる。

以上の分析の結果、専門教員の語彙選定は形態素解析や頻度分析では抽出しきれない重要な専門語彙を補完することが示された。本報告の語彙リストは、学習者の専門的な日本語能力の向上に貢献し、政治学の学習や研究活動の支援に寄与すると考えられるだろう。

2-5 実践方法

本稿で取り上げる語彙習得支援の実践は、IUCにおける政治学の授業を基盤とし、中・上級日本語学習者を対象に行われた。以下では、専門語彙の効率的な習得を目指して実施された、語彙リストの構築、ICTを活用した教材化、生成AIの活用という三段階の取り組みについて、その実施手順を概観する。

1. 専門語彙リスト (O-list) の構築

授業での使用頻度や学習者の理解度に基づいて、専門教員が政治学に特化した語彙を抽出し、O-listとして整理・編成した。O-listは、他の語彙リストや形態素解析結果と比較・分析され、教育的妥当性が検討された。

2. ICTを活用した教材化

O-listを基に、Excel形式の語彙教材を作成し、さらにAnkiなどの語彙学習アプリへのデータ変換を行うことで、学習者の自律学習を支援した。教材は、授業進度や個別ニーズに応じた柔軟な運用が可能となるよう設計されている。

3. 生成AI (ChatGPT) を活用した短文生成と応用

ChatGPTに語彙リストを読み込ませ、プロンプト操作により学習者のレベルや目的に応じた短文生成を行った。語彙の出現頻度や文構造の難易度を調整しながら、文脈化された語彙学習の効果と教材としての可能性を検討した。

これらの実践は、専門語彙の導入・定着を支援するための基盤的な取り組みであり、3では具体的な内容と教育的効果について検討する。

3 語彙学習支援

柳瀬(2024)をはじめ、近年では語彙学習や語彙リストの作成にChatGPTを活用する試みが数多く報告されている。しかし、それらの多くは高度なプロンプト設計や出力の調整を要し、生成AIに不慣れな学習者にとっては導入のハードルが高いという課題がある。本稿では、こうした課題に対処しながら語彙学習の効率化を図ることを目的に、政治学クラスで使用されるO-listを基盤とした学習支援を提案する。具体的には、語彙学習アプリとの連携による反復学習の支援に加え、ChatGPTを用いた短文生成を活用し、文脈の中で語彙を使用する活動を組み合わせることで、学習者の負担軽減と自律的な語彙運用力の促進を目指す。本稿では、Ward(1999)が指摘する「目的に特化した語彙学習は効率性が高まる」という立場を理論的基盤とし、それをICT活用の実践を通じて教育現場への応用を試みるものである。

3-1 語彙学習アプリとの連携

大橋(2022)では、表1の語彙リストをもとに学生が自律学習できるエクセルファイルを開発している。このファイルには、単語表と単語クイズの二つのシートがある(図2)。

図2 単語クイズのシート

単語クイズ ** 1~34 *35~97 98~158									
クイズ範囲 最初	1								
クイズ範囲 最後	34								
									Total : <input type="text"/>
Q#	用語#	Lv	Pg.	単語	よみかた	意味 (英語)	正解表示	採点	
1	34	**	p.20	冷戦時代					
2	26	**	p.20	右翼					
4	28	**	p.20	保守派					

大橋(2022: 17)

大橋(2022)のエクセルファイルは授業や教科書に直結しており、授業で必ず使用するため学習者の語彙学習に対する動機は高い。2022年に授業で使用した際に、学習者からは自身で語彙クイズを作成できるのは良い、覚えた語彙を削除できるのは良いが追加ができない、アプリのほうが便利だと思うなどの声もあり、現在も開発を継続している。IUC外部へは非公開であるが、授業の進度に合わせて丁寧に語彙を習得できるため、目的に特化した語彙学習としては最適である（参照：大橋2022）。

一方で授業の枠を超えて専門語彙を学習したい場合、学習者は公開済みの語彙学習アプリを使用する傾向にある。IUCの学習者の使用率の高いAnkiDroid Flashcardsを例にしてみよう。O-listをChatGPTに読み込ませ、「Anki用形式 (UTF-8 / タブ区切り) を作成」というプロンプトを入力する。出力されたデータ（本稿の場合はo-list_anki_format_utf8.txt）をもとに図3のChatGPTの指示の手順を踏むと、図4のようなAnkiDroid Flashcardsの語彙学習カード（PC版）⁸が作成される。

図3 ChatGPTの指示

Ankiへの読み込み手順（簡単）

1. Ankiを開く
2. 「ファイル」→「インポート」
3. このファイル（o-list_anki_format_utf8.txt）を選択
4. フィールドマッピングで：
 - フィールド1 → 表面（Front）
 - フィールド2 → 裏面（Back）
5. カードの種類：Basic（表→裏）を選択
6. 「インポート」ボタンを押せば完了！

図4 AnkiDroid Flashcards (PC版)



図3でわかるように、語彙学習アプリで語彙カードを自作する際には、もととなる語彙リストが必要である場合がある。O-listはExcelで作成されており編集が容易であるため、学習

者の作成負担軽減につながり、自律学習の支援にもなるだろう。また、学習者から専門語彙は日常で目にする機会や使用する機会が少ないので覚えられないという声もあったが、アプリを使用することによって専門語彙に触れる機会も増えるため、記憶の効率性もあがると考えられる。

3-2 ChatGPTを活用した文脈化学習

専門分野で使われる語彙は、文脈に基づいた学習が求められる。IUCのある学習者は漢字語彙の習得について、ChatGPTに自身の専門に関する文章を作成させることで文脈の中で理解でき、習得が進んだと述べた。鈴木(1995: 2)は「意味的水準で方法処理をすると、その素性は長期記憶に転送され、記憶が長時間保持される。物語文を作るといった覚え方は、構成的、精密的 (constructive-elaborative) であり、意味的水準で情報処理をする深い記憶と考えられ、精密型リハーサル (elaborative rehearsal) と呼ばれる」と述べている。

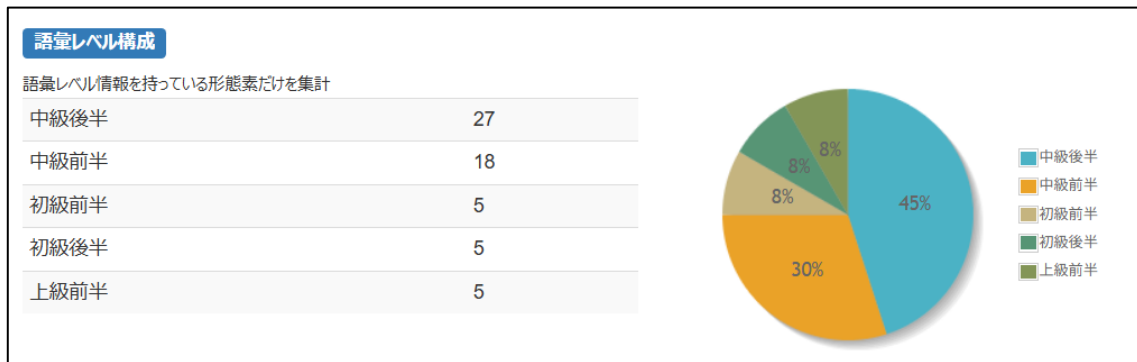
IUCでは、学習者が専門語彙を用いて説明、意見陳述、プレゼンテーションなどを行うことが求められる。これを踏まえ、3-2では、学習者の知識領域や関心に基づいた文脈で語彙を習得することが、精密型リハーサルを促進し、長期記憶への転送を可能にするとの仮説の下、ChatGPTによる短文生成を活用した語彙学習の可能性を検討した。さらに、専門語彙を意味知識として記憶するだけでは語彙を運用する際にコロケーションや文体の不自然さが残る。本実践では短文生成を通じた文脈化学習によって、運用の不自然さを効率的に補完することを目的とする。

O-listを使用したChatGPTによる短文生成について具体的に検討していこう。例えば、「政治に関する文章を400字程度で書け。その際、文章はN5程度にしろ」というプロンプトでは法律、税金、選挙という3語のみがO-listと一致した。N5をN1に変更すると、外交と行政機関の2語がO-listと一致した。いずれも1分以内で出力されるが、このプロンプトでは必要な語彙が十分に含まれていない。そこで3つのプロンプト、P-1、P-2、P-3を用いてChatGPTに短文生成を指示した。P-1、P-2、P-3の出力に対して、本稿では日本語文章難易度判定システム (jReadability) を用いて難易度を計り、O-list語彙の出現数および学習者のレベルに応じた適切な教材の生成可能性を検討した。出力結果をRと表示していく。

P-1: 「O-list」のB列にある単語を5つ以上使い、200字程度で政治に関する文章を作ってください。使用した文章は太字にしてください

R-1: 民主主義を維持するためには、政治改革が不可欠である。特に改憲や法改正の議論は国民の意識調査を基に進めるべきだ。近年、政治家が経済を営む企業への介入を強める動きが著しく、公共の利益との調整が求められている。また、市民が積極的に意見を訴えることで、選挙や改選の過程に透明性をもたらすことができる。健全な政治を築くためには、議論を深め、多様な意見を尊重することが必要である。

図5 jReadabilityによる語彙レベル構成評価 (R-1)



R-1は、O-listから抽出した語彙が論理的な接続詞や因果関係とともに文中に自然に組み込まれており、政治学的な話題に即した語彙の運用が確認できた。語彙の選定と文脈の整合性が保たれており、学習者が語彙の運用を含めて理解する助けになると考えられる。jReadabilityによるR-1のテキスト概要のレベルは上級前半、語彙レベル構成（図5）と評価され、語彙レベル自体は中・上級の日本語学習者にはそれほど難しくないということがわかる。

本稿の専門語彙から一般語彙の意味を推測させるという可能性も視野に入れた場合を考慮し、P-2のプロンプトを入力した。

P-2：R-1をJLPTのN4レベルの文法のみで書き換えてください

R-2：民主主義を維持することは大切です。国の改革や改憲、法律の改正は、国民の意識調査を見ながら進めるべきです。最近、政治家が会社を営む人たちに介入することが著しくなりました。これがよいことかどうか、みんなで考えることが大事です。また、市民が意見を訴えることで、選挙や改選がよくなります。みんなが政治について話し合い、いろいろな意見を大切にすることが必要です。

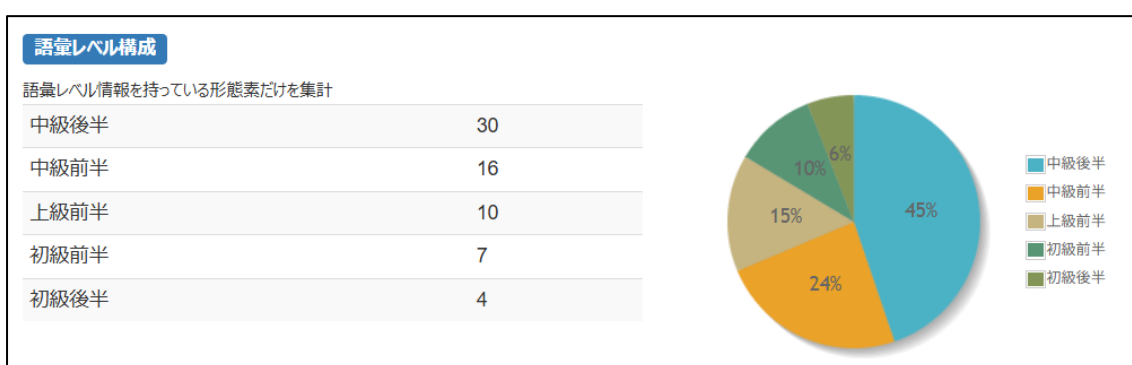
jReadabilityによるR-2のテキスト概要のレベルは中級後半と評価された。R-2では、N4文法に制限された条件下でも語彙の核となる意味は維持されており、接続語や助詞の使用が簡略化されつつも、文全体の意味理解に大きな支障はなかった。ただし、抽象語彙の概念的精度はやや損なわれており、意味の精緻さを求める学習段階には課題が残る可能性がある。

さらに多様なレベルの学習者を想定し、P-3のプロンプトを入力した場合、R-3のテキスト概要のレベルは上級前半と評価された。

P-3：R-1をJLPTのN1レベルの文法のみで書き換えてください

R-3：民主主義を維持するには、不斷の努力が求められる。とりわけ、政治改革や改憲、法律の改正に関する議論は、国民の意識調査を踏まえた上で、慎重に進めなければならない。近年、政治家による企業経営への介入が著しく増加しており、その是非を巡って議論が続いている。こうした状況下では、市民が積極的に意見を訴えることが求められ、それにより選挙や改選の透明性が確保される。健全な政治体制を構築するためには、多様な意見を尊重し、議論を尽くす姿勢が不可欠である。

図6 jReadabilityによる語彙レベル構成評価 (R-3)



R-3はN1レベルの複雑な構文を用いており、特に論述文体の模倣が顕著である。語彙の配置が理論的文脈により深く結びついており、文構造と語彙の意味関係の把握を通じて、高次の語彙処理が可能になる構成であった。R-1と語彙レベルは同等とされるが、情報の凝縮度や文体の硬さから、学習者への負荷はR-3の方が高いと想定される。

IUCでは長年いわゆる内容言語統合型学習を行っているが、その一つの取り組みとして文脈挿入型の語彙クイズがある。例えばR-3を利用した語彙クイズは以下の問1のようになる。

問1：次の【 】に入る言葉を□の中から選び記入しなさい。必要ならば形も変えなさい。語彙は1度しか使えないものとする。

民主主義を【 a 】するには、不断の努力が求められる。とりわけ、政治【 b 】や【 c 】、法律の【 d 】に関する議論は、国民の【 e 】を踏まえた上で、慎重に進めなければならない。近年、政治家による企業経営への介入が【 f 】増加しており、その是非を巡って議論が続いている。こうした状況下では、市民が積極的に意見を【 g 】ことが求められ、それにより選挙や【 h 】の透明性が確保される。健全な政治体制を構築するためには、多様な意見を尊重し、議論を尽くす姿勢が不可欠である。

意識調査	維持	著しい	訴える	改革	改選	改憲	改正
------	----	-----	-----	----	----	----	----

* R-3を利用した内容言語統合型語彙クイズ

3-2で示したように、プロンプトを調整することで、語彙の出現頻度や文の構文的難易度を一定程度制御できることが確認された。この知見は、ChatGPTの出力が単なる例文提示にとどまらず、語彙・構文・文体を統合的に反映した文章生成を実現し得ることを示唆するものである。したがって、学習者の日本語能力水準や専門領域に応じて教材を柔軟に設計することが可能となる。特に、学習者の関心分野に即した文脈内に語彙を配置することで語彙親和性が高まり、習得の定着を促進する効果が期待される。さらに、出力文の可読性や語彙統合の自然さという観点からも、ChatGPTを活用すれば個別化された教材を比較的容易に生成でき、授業活動と自主学習の双方で活用できる点が教育実践上の有用性を裏付けている。

一方、ChatGPTの導入に際しては、教材や語彙クイズとして利用する場合に、教師による一定の微調整を要する可能性がある。しかしながら、ChatGPTの利用による教材作成の負担を軽減できる利点は大きい。加えて、3-1で示した学習者自身が語彙クイズを作成することの有用性も加味すると、学習者が自ら語彙を選択し、コロケーションを意識して内容言語統合型の文章を生成することで文脈化学習が促進され、生成された文章を活用することで運用が強化され、授業での意見表明なども円滑に行えるだろう。これらの点は、ChatGPTが文脈化学習の自主学習支援ツールとして有用であることを示している。

今後は、学習者アンケートを通じて語彙習得に対する主観的效果や生成文活用への評価を収集し、実践的な検証を重ねていく予定である。

4 おわりに

本稿では、政治学を学ぶ中・上級日本語学習者を対象に、専門語彙の習得を支援する教育実践として、語彙リストの構築から教材化、さらに生成AI (ChatGPT) を活用した語彙学習までの一連の取り組みを報告した。O-listは、授業実践に基づく専門教員の視点から、語彙の使用頻度や理解度を踏まえて選定されたものであり、他の語彙リストとの比較分析や形態素解析との照合を通じて、その独自性と教育的有用性が示された。

また、O-listを基盤としたExcel教材や語彙学習アプリとの連携は、自律的な語彙習得を支援する実践的手段として一定の有用性が認められた。さらに、ChatGPTによる短文生成を通じて、語彙の文脈化や文章難易度の調整が可能であることが確認され、学習者の日本語レベルに応じた個別最適な教材生成の可能性が示唆された。また、学習者のニーズに合った形で文脈の中で語彙学習の支援ツールとしても活用できる。これらの結果は、AIを活用した教材開発が省力化と個別化、自律学習支援において有用であることを示すものである。

今後の課題としては、語彙の難易度や使用場面に応じた教材設計のさらなる深化、ChatGPT出力の一貫性および語彙の網羅性向上、プロンプト設計の最適化が挙げられる。また、実際に教材を使用した学習者へのインタビューやフィードバック収集を通じて、その教育的効果を実証的に検証する必要がある。さらにO-listと教材の公開を目指す。

本稿で得られた知見は、政治学にとどまらず、他の専門分野における専門日本語教育にも応用可能であり、今後は分野横断的な語彙習得支援に向けた教育実践の展開が期待される。専門知識と語彙教育を結ぶ新たなアプローチとして、本実践が語彙学習支援の発展に寄与する一助となれば幸いである。

注

- 1 本稿は、結城(2025)での口頭発表の内容に新たな資料と見解を加え、発展させたものである。
- 2 engineering listの略。
- 3 EGAP: English for General Academic Purposes。
- 4 ESAP: English for Specific Academic Purposes。
- 5 CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) を参考に、日本語の習得段階に応じて求められる日本語教育の内容・方法を明らかにし、外国人等が適切な日本語教育を継続的に受けられるようにするため、日本語教育に関わる全ての者が参照できる日本語学習、教授、評価のための枠組み。文化審議会国語分科会日本語教育小委員会で令和元年から検討を開始し、国民の意見募集を経て、令和2年11月に一次報告、令和3年3月に二次報告を

取りまとめたもの（文化庁2021）。

- 6 授業の都合上、第14章の語彙リストはない。
- 7 松下言語学習ラボのホームページにて公表されている。
- 8 スマホ版もある。
- 9 下線部は筆者が加筆した。

参考文献

- 秋澤委太郎 (2024) 「2023-24年度レギュラーコースカリキュラム報告 —アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの集中日本語教育」 日本研究センター教育研究年報 第13号
- 大橋真貴子 (2022) 「『政治』クラスの教材開発」 日本研究センター教育研究年報 第11号 pp.11-21
- 佐藤史郎・上野友也・松村博行 (2021) 『はじめての政治学』第3版 法律文化社
- 鈴木広子 (1995) 「記憶モデルから見た外国語の習得と理解」 『神奈川大学言語研究』17 pp.83-98
- 田地野彰・寺内一・笹尾洋介・マスワナ紗矢子 (2007) 「総合研究大学における英語学術語彙リスト開発の意義—EAPカリキュラム開発の観点から—」 『京都大学高等教育研究』13
- 松下達彦 (2011a) 「日本の学術共通語彙（アカデミック・ワード）の抽出と妥当性の検証」 日本語教育学会春季大会予稿集 東京国際大学
- 森本哲郎（編著）(2006) 『現代日本の政治と政策』法律文化社
- 柳瀬陽介 (2024) 「ChatGPT による学術英語語彙の自律的学習—言語観とプロンプト設計と学習者認識の一貫性—」 『KELESジャーナル』9巻 pp.45-51
- 結城佐織 (2025) 「政治学における専門語彙の習得支援—中・上級の日本語学習者向け語彙リストの構築と分析—」 JSLs 2025 Conference Handbook
- Ward, J. (1999) How large a vocabulary do EAP Engineering students need? *Reading in a Foreign Language*, 12(2), 309-323.

[ウェブサイト]

木下健 (n.d.) 「政治学・行政学用語集」 WordPress

<<https://kk6453660.wordpress.com/%E3%83%A1%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC/%E6%95%99%E8%82%B2/%E6%94%BF%E6%B2%BB%E5%AD%A6%E3%83%BB%E8%A1%8C%E6%94%BF%E5%AD%A6%E7%94%A8%E8%AA%9E%E9%9B%86/>> (2025.5.15閲覧)

筑波大学外国語センター (2021)「リーディング チュウ太」

<<https://chuta.cegloc.tsukuba.ac.jp/>> (2025.1.31閲覧)

日本語文章難易度判定システム (2023)「jReadability」<<https://jreadability.net/sys/>>

(2025.2.20閲覧)

文化庁 (2021)「日本語教育の参照枠」の概要」

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/chiikinihongokyoiku/r05_boshu/pdf/93841301_04.pdf> (2025.7.30閲覧)

松下言語学習ラボ (2017) <<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/list.html>>

(2025.5.15閲覧)

松下達彦 (2011b)日本語学術共通語彙リスト Ver. 1.01

<<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/list.html>> (2025.5.15閲覧)

松下達彦 (2011c)「日本の学術共通語彙（アカデミック・ワード）の抽出と妥当性の検証」日本語教育学会2011年春季大会口頭発表スライド

<<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/list.html>> (2025.7.15閲覧)

AnkiDroid Flashcards(n.d.).

<<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.ichi2.anki&hl=ja&pli=1>>

(2025.7.15閲覧)

Club Alpha (n.d.)「政治・選挙」The Japan Times Alpha

<<https://alpha.japantimes.co.jp/clubalpha/vocabulary/politics/>> (2025.5.15閲覧)

OpenAI (n.d.)「ChatGPT o4」<<https://chatgpt.com/>> (2025.2.20閲覧)